



海外駐在員事務所が伝える

グローバルの今

FFGでは、独自のネットワークを活かしてお客さまの海外ビジネスを総合サポートしています。
今回、バンコク駐在員事務所の山本所長に現地の情報やビジネスについて伺いました。

Question 1

今回はインドに進出している
企業を紹介します。
現地の状況について
教えて下さい

① インドは2023年に人口が世界1位となり、更に2028年にはGDPが世界3位となる見通しですが、現地に進出している日系企業数は2023年時点で1,400社と、タイ(5,856社)やベトナム(2,394社)と比較すると決して多くはありません。これは、州毎に異なる複雑な法制度や現地企業との激しい価格競争といった目に見えるものだけでなく、多言語・多宗教という国家の構造に起因した会社運営におけるマネジメントの難しさも背景にあると言われています。一方で、インド経済の拡大に伴う中間所得層の増加とともに、価格最優先ではなく安全性の高さや健康志向といった付加価値を重視する市場が拡大しつつあり、製品やサービスの品質に強みを持つ日系企業にとっては、進出の

※1 インド共和国概要

主要項目		参考
人口	14.4億人	2023年に中国を抜いて世界1位に
面積	328.7万km ²	日本の約9倍
名目GDP	3.6兆ドル	世界5位(2023年推計)
言語の数	22言語	公用語のヒンディー語の他、21言語
日系企業数	1,400社	タイ5,856社、ベトナム2,394社

(出所: 国際通貨基金、国際連合、外務省HPより作成)

検討余地が増えてきています。
(※1)

Question 2

現地企業の声を
聞かせて下さい

(第一交通産業インディア 鈴木社長)

① インド南部のベンガルールにて企業向けハイヤーサービス等を運営する「第一交通インディア」の鈴木社長にお話を伺いました。(※2※3)

弊社は第一交通産業グループの海外事業として2017年に設立されました。進出の背景にあるのが当地での交通事故数の多さです。弊社では今後モデリバイの品質向上や安全性の追求によってインドの課題解決に貢献していきたいと考えています。

弊社がこれまで大事にしてきたことは「インドを知る」ということです。例えば、社長自らが率先してゴミを拾うといった行動は、歴史的に縦社会の文化が残るインドにおいては好意的には受け止められません。また、言語や宗教の違いがあるため社内での業務連絡や意思の統一には配

※2 DAIICHIKOUTSU INDIA PVT LTD

項目	内容
本社	4th Floor, Mittal Tower, MG Road, Bengaluru
事業内容	企業向けハイヤーサービス・ドライバー派遣・自動車整備
設立	2017年7月
社員数	250名(うち日本人3名・ドライバー210名)
車両台数	106台(2017年の設立当初は5台)

(社員数・車両台数は2024年6月末時点)

※3 ドライバーの写真



慮の必要があり、弊社ではチーム単位での業務運営や全社員参加型のイベントを実施することにより、社員間の垣根を取り除きコミュニケーションが活性化するように取り組んでいます。これらの取り組みに加えて、ドライバー採用時にはしっかりと

した安全講習を実施し、お客さまから選ばれる質の高いサービスを提供するよう努めています。インドで事業を軌道に乗せるには相応の時間が必要ですが、まずはインドへお越しになり発展の進むインドを肌で感じて頂くことをお勧めします。

Question 3

海外ビジネスを目指すお客さまへメッセージを願います

A 多くの日系企業が集積するASEAN諸国と違い、インドへの日系企業進出は他国ほど進んでいるとは言えません。一方で、JETRO「2023年日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査」によれば市場規模・成長性を魅力として事業拡大を目指す企業の割合はインドが最も高く、新たな事業展開の候補地としてFFGで受けるインド関連の相談も増えてきています。FFGでは市場調査や販路開拓等の様々なニーズに対して、現地ネットワーク先の紹介、展示会のご案内、業務提携先のJICA九州との連携等、ご相談内容に応じて国内・現地の両面からサポートいたします。



現地のおすすりめや
過ごし方を
ご紹介下さい

※4 インド人街のランドマーク「インディアエンポリウム」



バンコクには多くのインド人が居住しており、「リトルインディア」と呼ばれるインド人街も存在します。ランドマークでもある「インディアエンポリウム」では、スパイスが効いた本格的なチャイやサリー等の民族衣装が販売されています。タイにも様々な色使いの洋服や雑貨がありますが、インドのものは原色を多用し、金色を織り交ぜた煌びやかなデザインが目を引きまます。街自体はそこまで大きくはありませんが、バンコクにいながらインドを体感することができます(※4)